

# 来ふらり 68

## ドッグ・イヤー (Dog year)

犬の寿命は人間より短く、人間の7倍の速度で生きていると考えられていることから、この言葉は情報化社会の変化の速さ、移り変わりやすさを比喻する言葉としてしばしば使われています。図書館を取巻く環境もこの言葉と決して無縁ではありません。古くは印刷資料を中心とした伝統的な図書館の時代がありました。しかしその後伝統的な図書館にコンピュータが入り、データベースが図書館サービスの中核的な役割を担い、さらにはインターネットやマルチメディア時代における図書館へと進化することが要請されてきています。このような流れの中で本学の大学図書館も様々な模索を繰り返し、可能な限り対応してきましたが、今回利用者アンケートを実施した結果さまざまな問題点が指摘され、それは奇しくも大学図書館のもつ限界を露呈した結果になりました。このことを図書館の施設・設備を中心に考えてみたいと思います。

## 学習環境としての図書館

図書館サービスの基本は言うまでもなく所蔵する資料を利用者に速やかに提供することにあります。しかしアンケートの結果、図書館の利用目的では自習という回答が最も多かったことは、より快適な学習環境を提供することが図書館の大事なサービスであることを意味しています。しかし現状ではどうでしょうか。「座席数が足りない」「他の利用者の話し声がうるさい」「集中で

きる閲覧機が少ない」など、学習環境としての不備を訴える声が多数ありました。この現象は試験期のみの特異な現象だけでなく、また利用者のマナー向上を訴えるだけで解決する問題でもない、図書館施設の構造的な問題として受け止める必要があるでしょう。

## 資料を提供するスペース

資料に関する質問で蔵書数の少なさ、あるいは開架図書の少なさを指摘する声が多数ありました。ここでは開架図書が少ないという指摘について考えてみましょう。利用者にとっては資料を直接手にとって内容を確認したいという要望は自然なことだと考えます。したがって、書庫にある資料を開架に出せばとりあえず問題は解決するのですが、その為には現状では座席等を削らなくてはならなくなり、「座席数が足りない」という声とは矛盾した結果になってしまいます。結論的にいえば学習環境としての図書館、資料を提供するスペース、多様な利用目的に応じた施設、そしてインターネットやマルチメディアに対応した空間を提供するには現状の施設では限界があるといえるでしょう。

アンケート調査の各質問毎の集計結果については次頁以降をご覧ください。なお今回のアンケート調査の集計結果に関して、現状で改善できるところを洗い出し、その為の方策を検討している段階です。

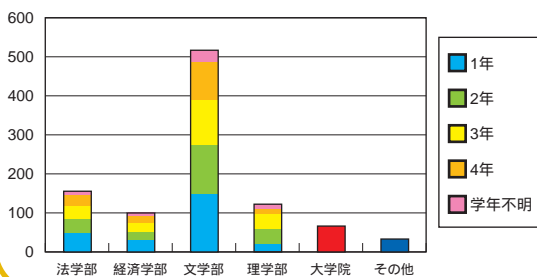
## 大学図書館の現状 利用者アンケートを実施して



# 利用者アンケートの集計結果について

アンケートは7月5日から11日まで、図書館に  
来館した利用者にアンケート用紙を配布して行いま  
した。回収したのは1,012枚で回収率は約46%でし  
た。そのうち記入のないものを除いた有効回答数は  
981枚となり、これは本学の学生数の1割強にあた  
る数字です。

図1 所属別・学年別 回答者数



それでは各質問ごとの集計結果を報告します。ま  
ず質問1の**解答者の所属ならびに学年**ですが、図1  
のとおり文学部の学生が最も多く（516名）、全解  
答者数の52.6%を占めています。また学年別にみ  
ると1年生の回答が最も多く（242名）、2年生が  
217名、3年生が214名、4年生が157名と、学年  
が上がるにつれて解答者数が減少しています。

表1 所属別満足度・不満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無記入	合計	やや不満・不満	不満率
法学部	43	67	30	11	2	153	41	26.8%
経済学部	26	49	18	6	0	99	24	24.2%
文学部	91	246	160	16	3	516	176	34.1%
理学部	26	55	31	4	1	117	35	29.9%
大学院	3	25	26	10	1	65	36	55.4%
その他	8	11	12	0	0	31	12	38.7%
合計	197	453	277	47	7	981	324	33.0%
割合	20.1%	46.2%	28.2%	4.8%	0.7%	100%		

次に利用者がこの**図書館をどのくらい利用してい  
るか**質問したところ、最も多いのが週1～2回で  
504名（51.4%）、次にほとんど毎日が266名  
（27.1%）で図書館の利用度はかなり高いという結  
果が出ました。しかしながら今回のアンケートは図  
書館に来館した利用者を対象に実施しているので、  
この数字は妥当なものだとも言えるでしょう。

次の**図書館の利用目的**について最も多い回答は自  
習の705名（71.9%）で、図書館資料の借出・返却の  
527名（53.7%）よりも多いという結果になりました。

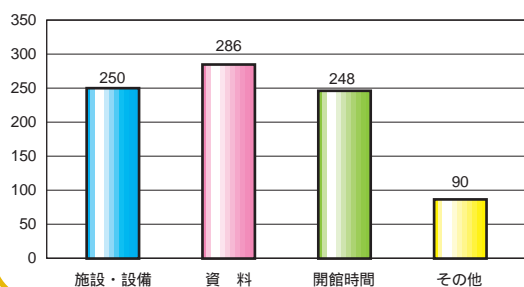
次の質問は**図書館に対する満足度**ですが、表1の  
とおり満足しているとの回答が197名（20.1%）、  
やや満足しているとの回答が453名（46.2%）で、  
両者を合わせると66.3%の利用者が現在の図書館  
サービスに対して満足しているという結果となりま  
した。しかしながらこれら満足していると回答した  
利用者でも多数の人が次の何に不満を感じているか  
という質問にも回答しているので、満足していると  
回答した利用者でも何らかの不満を持っていること  
が窺えます。逆に不満とやや不満を合わせた不満  
度を所属別にみると、最も多いのが大学院生で過  
半数の人が不満を感じており、また学部別では利用  
者の最も多かった文学部の学生の不満度が高い  
（34.1%）ことがわかります。この不満度を学年  
別にみると2年生が最も低く（29.0%）、1年生が  
29.8%、3年生が32.2%、4年生が37.6%そして大  
学院生が55.4%と学年が上がるにしたがって不満  
度が高くなっています。学年が上がるに従い図書  
館の利用形態が高度化するのに、図書館のサービ  
スがこの傾向に対して充分対応していないことが考  
えられます。

次に**不満の理由**を聞いたところ、図2のとおり最  
も多かったのが資料に関することで286名の回答が

夏休み前の前期試験期に、大学図書館では利用者に対してアンケート調査を実施しました。現在大学図書館では施設や設備の見直しを検討しているところですが、利用者が日々図書館を利用しているなかでこの図書館をどのように評価しているのかを調査し、その結果を今後の検討作業の中で活かしていきたいと考え、今回アンケート調査を実施しました。その結果をこの場を借りて公表したいと思います。

ありましたが、施設・設備に関することや開館時間に関することもほぼ同数の回答がありました。またその他として館内の騒音(話し声、携帯電話の使用)やマナーの悪さを指摘する回答が多数ありました。これはもちろん利用者のマナーの問題でもありますが、利用者の様々な利用形態に対して図書館の施設が対応できていないことからくる問題だとも考えられます。

図2 不満の理由



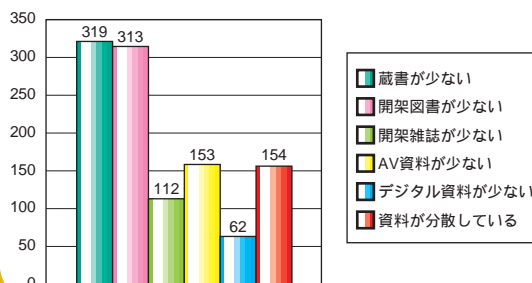
施設・設備の何に不満を感じているかという質問で、最も多い回答は座席数が少ないことで(373名)、次いで休憩や飲食ができる場所が少ない(345名)、集中できる閲覧机が少ない(236名)の順となっています。

またあつたらよいと思う施設・設備については、コピー室との回答が最も多く(440名)、次いでラウンジ(談話室)333名、個人用閲覧室(264名)の順となっています。コピー室という回答にはコピー機の不足を意味しているものが多いと思われます。また個人用閲覧室という回答の背景には先に述べた図書館内の騒音に対する不満があるのではないのでしょうか。

次に資料に関して何に不満を感じているか質問したところ、図3のとおり蔵書が少ないという回答が最も多く(319名)、開架図書が少ないという回答

もほぼ同数(313名)ありました。いずれも図書館の蔵書の少なさに利用者が不満を感じていることが窺えます。また学習院大学全体では相当の蔵書を所蔵しているにもかかわらず、それらが多数の図書施設に分散しているため利用しづらく不便であるという回答も多数ありました(154名)。

図3 資料の問題点



次の開館時間については平日ならびに土曜とも今のままでよいという回答が最も多いが(平日531名、土曜399名)、一方で平日は22時、土曜は20時まで希望する回答が次に多く(平日195名、土曜355名)、現状のままとする意見とできるだけ長く開館してほしいとする意見に別れた結果となりました。

また開館時間の延長時に何か不満を感じているかどうか質問したところ、大多数の人が特に不満を感じたことがないとする回答でした(707名)。

以上紙数の関係で簡単な報告になってしまいましたが、今回のアンケート調査の結果を今後の図書館運営に反映させたいと思います。試験の準備で忙しい中アンケート調査に協力して頂きまして有り難うございました。なお詳しい調査報告は図書館のホームページに掲載する予定ですので、ぜひそちらもご覧になって下さい。

## サービスは公平か？

以前、試験期にカウンター当番をしていた時、ある学生から「R大で所蔵している資料を借用したい」との申し出があった。R大は山手線コンソーシアム参加校だったので借用可能だが、念のため本学の所蔵を確認したところ、学科図書室で同じ資料を所蔵していた。その旨伝えると、書庫資料のため特定の曜日にしか閲覧できないので間に合わない、と言われた。結局学生にはR大に出向いてもらったが、何となく釈然としないものが残った。本学の場合、各学部

(学科)所蔵資料が3分の2を超えている。その上各学部(学科)の利用規則は独自に決められているので、場合によっては所属学部(学科)ごとに受けられるサービスが異なる事もある。しかし、考えてみれば学生はほぼ同額の経費を負担しているのだから、所属に関わりなく同質のサービスを受ける権利があるはずである。他大学の相互協力は必要だが、そもそも学内における協力体制は確立していると言えるだろうか？所蔵資料が必要な時に手に入る。あたり前のようだが本学ではそうでない時も実はある。残念だが。(総務課 中山 高二)

## データベースで文献を探そう!!

ぐ~んと便利になります

レポートや卒論を書くときには、テーマに合った文献が必要になります。本だったり、雑誌論文だったりするわけですが、どんな文献があるのか、最近はデータベースを検索して探すこともできるようになっています。このデータベースのうち有料のものは、これまで大学図書館の2階レファレンス・カウンターで、係員が代行して検索するという方法でしか利用できませんでした。

そこで、この9月から有料データベースのうち、これまでにサービスしてきた朝日新聞の全文記事検索データベース「DNA」に加えて、下記のことを学内どこからでも自由にアクセスできるようにしました。きっとみなさんのぐ~んと身近で便利な存在になるはずです。計算機センターや図書館のパソコンなどからアクセス

して文献を探してみましょう。

ただし、探した文献の入手法については、大学図書館2階レファレンス・カウンターにお尋ねください。

### MAGAZINEPLUS

国立国会図書館の「雑誌記事索引」をはじめ、一般誌や学会年報などの論文記事が検索できる国内最大規模のデータベース(同時アクセス数は5)

### FirstSearch

アメリカのOCLCが提供する総合データベース(図書・雑誌の書誌をはじめ図書館等の所蔵、雑誌記事等が検索できる)

### 大学図書館ホームページ

(URL:<http://www.glim.gakushuin.ac.jp/>)の外部オンラインデータベースをクリックすればアクセスできます。

(運用課 工藤 晶子)

「来ぶらり」のバックナンバーは大学図書館ホームページ(<http://www.glim.gakushuin.ac.jp/>)で公開しています。

来ぶらり No.68 2001年10月15日発行

発行責任者：黒田成俊 編集委員：倉持仁志・伊藤 修

学習院大学図書館 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

☎03-3986-0221(代) 内239㉔(参考) 内239㉗(閲覧) 03-5992-100㉔(閲覧直通)